

高大(専)連携実践発表会

令和7年11月21日

於：花園大学 返照館

13:30～13:40 開会行事（挨拶・日程等連絡）

13:40～14:10 研究発表Ⅰ(30分)

「 関学が行っている「探究」の発表 」

発表者 関西学院高等部 教諭 西室 雅央 先生

14:10～14:20 質疑応答 小休憩

14:30～15:00 研究発表Ⅱ(30分)

「 キャリア教育と探究活動 」

発表者 和歌山県立桐蔭高等学校 山本 学 先生

15:00～15:10 質疑応答 小休憩

15:20～16:10 研究協力発表(50分)

「 大学入学者選抜に押し寄せる変化の大波 ―高校の変容と大学の解体― 」

講 師 花園大学 学長 磯田 文雄 様

16:10～16:20 質疑応答

16:20～16:30 閉会行事（挨拶・連絡）

主催：近畿高等学校進路指導連絡協議会

後援：京都府教育委員会 京都市教育委員会 滋賀県教育委員会

奈良県教育委員会 兵庫県教育委員会 大阪府教育委員会

和歌山県教育委員会

協賛：花園大学

研究発表Ⅰ

関学が行っている「探究」の発表

関西学院高等部 西室 雅央 先生


関西学院高等部
KWANSEI GAKUIN SENIOR HIGH SCHOOL



関西学院高等部における 探究型カリキュラムについて

2025.11.21 (金)
 近畿高等学校進路指導連絡協議会 高大(専)連携実践発表会
 @花園大学 返照館
 関西学院高等部 西室 雅央



講演者・関西学院高等部 (KGH) の探究のHP

- ・ 講演者
 西室 雅央 mnishimuro@kwansei.ac.jp
 関西学院高等部 英語科
 探究型カリキュラムコンビナー
- ・ KGHの探究のHP
 探究型授業の活動報告 「中・高生 探究の集い」




KGHの概観

- ・ 建学の精神 “Mastery for Service”
- ・ キリスト教主義
- ・ 全日制普通科 / 男子校から2015年に共学化
- ・ 約95%が関西学院大学へ
- ・ 盛んなクラブ活動
- ・ 全学年が1人1台 iPad : Classi / ロイロ
- ・ 1学年 9クラス 約380名 × 3学年
- ・ SELHi 2004-2006
- ・ SGH 2014-2018
- ・ WWLC 2019-2021





本日の結論

1. カリキュラムはどうデザインしたのか？
 はじめに仕組みがあったのではなく
属人的に仕組みが作られた
2. どう多くの教員を巻き込んだのか？
 教科を超えた**共通理解**と**共通言語**
3. どのような探究を学校として目指しているか？
 拠り所となる**スクールミッション**

これから10年のキーワード(?)

**主体的・対話的で
深い学び**

**「みんな」
で育む**

自らの人生を舵取りする力

「好き」を育み「得意」を伸ばす

質の高い探究的な学びの実現×情報(科)の一層の関連

「主体的に学習に取り組む態度」の評価→個人内評価

「余白」の創出

文部科学省 中央教育審議会 教育課程企画特別部会 (2025). 論点整理 (素案)

本日のテーマ

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価
2. 学校内外連携
3. 探究型授業の展開

KGHの探究活動



KGHの探究活動 (の非公式イメージモデル)

探究型科目

title			
書名	題名	URL	ページ数
場所	https://kensko.sasaki.com/kiji/moge/71748842872053		23
記事本文として取り上げたい記事のURLをここに記入してください。			
「FOLIO」TETSUYAさん監修、中学向けダンス教室開催 教員制作権力		山崎 浩太郎 高橋 真由子 2023.04.26	
記事本文として取り上げたい記事のURLをここに記入してください。	記事本文として取り上げたい記事のURLをここに記入してください。		
情報			
人権グループ「EXILE」のメンバー、TETSUYAさん監修の中学向けダンス教室ができた。単なるダンス教室ではなく、国中の習字授業に沿い、習字に立つ想像力教育。制作には音楽教育者や県内の教員らが協力、県民から選出で活用するとのこと。		①新着	
教材「中学校の現代文の文芸的要素の読み解き—レクチャーモード—」で、D・V・D2枚組（第14分冊）。T・S・U・Y・Aさんはもちろん、ダンスの基礎や必要なもの技術指導だけでなく、生徒の自由な振り付けやフューネーションを支援する「グループワーク」、同世代生との間で発表する「交流会」も盛り込んだ。内容が評価され、文部科学省認定作品にもなった。		②文芸	
TETSUYAさんは、早大文学部ではダンス教育について研究し、2018年一修了した。今の教材は当時の論文をもとにしたもので、その後、抱かたがたの情念でこの分冊までたどり着いたとダンス教育の情を語ります。その過程、抱かたがたの情念でこの分冊までたどり着いたとダンス教育の情を語ります。その過程、抱かたがたの情念でこの分冊までたどり着いたとダンス教育の情を語ります。		③文芸	
県内の中学校で授業を視察して教員らが習字を間いたり、信大で教員養成の学生と意見交換したりした。ダンスは12年度に中学の体育教育での必修化が決まり、指導に悩む教員が主な理由。T・S・U・Y・Aさんは県内の中学の教員や生徒ら3400人にアンケートも実施。教室の広さや、長野市と松本市とで校舎設備のサブアップも進められた。		④文芸	
8月にオンラインで教員を招き、T・S・U・Y・Aさんは「生徒がダンスの楽しさを伝えるための要因は、映像を見て、基礎が学べて、発表の場があること。一方で、先生たちが「隠れてい」評価の基が確立したい」と話している。その際実際にして授業デザインを考えた。先生活が丁寧に考えるべき教材で教材とも話した。		⑤WEB	
教材は、2万5千円で1日1回から、県民連立の中校や県内の全市町村教員に配布する。TETSUYAさん本人は今年最多の、県民連立も担任している。		⑥文芸	

考察(分析・予測・推定・発見)

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価

「総合的な探究の時間」

- ・4つのステップのサイクルを繰り返すことを想定した学習
- ・自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を発見し、解決していく
- ・①探究の対象・領域が「特定の教科・科目に留まらず、横断的・総合的」
- ・②「複数の教科・科目等における見方・考え方を総合的・統合的に働かせる」
- ・③「解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題に対して、最適解や納得解を見出すことを重視」

関西学院高等部の探究型科目の立ち位置はこの中間点（？）

各教科における「探究」科目

- ・当該の教科・科目における理解をより深めるために、探究を重視する方向で見直しを図られたもの
- ・教師があらかじめ設定した狭い範囲での「探究」を想定

西岡加奈恵、大貫守 他. (2023). 高等学校「探究的な学習の評価」. 学事出版.

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価



31

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価

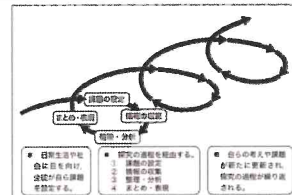
「探究」の要素

- ① 大学や大学院で行われるような「研究活動」の特徴が高校での学びの中に取り入れられること。
- ② 自らの「問題を発見し解決する」学習活動であること。
- ③ 調査や観察、実験などを通じて、何かしらを「明らかにすること」を目的としていること。

林直. (2019). 探究の力を育む課題研究：中等教育における新しい学びの実践. 学事出版.

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価

「探究」の4つのステップ



- ① 課題の設定：生徒自身の生活と関わりの中で、生徒自らが課題を設定する
- ② 情報の収集：課題の解決に必要な情報を集める
- ③ 整理・分析：集めた情報を比較、分類、関連付けて情報を整理し、課題の最適解を分析する、そして解決に向けてアクションを起こす
- ④ まとめ・表現：アクションなどの取り組みを振り返り、他者にわかるよう表現する

田村学 (監修) & 廣瀬志保(編著). (2022). 高校生のための「探究」学習図鑑. 学事出版.

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価

探究のステップ	時期	内容
1 課題の設定	2年次 1学期 2学期	・「平和」の定義作り、定義の再構築 ・第2次世界大戦と日本というテーマでのリサーチ ・上記リサーチとディスカッションの継続 ・西宮市平和資料館訪問 ・関西学院の学友部訪問、関西学院福祉史インタビュー ・文献調査
2 情報の整理	2年次 3学期	・仮説の作成 ・文献調査 ・「関西学院の戦時を語るような新しいAIワークマップ」を作成すれば、誰でも身近に平和について考えようできるのではないか ・ARコンテンツ作成 (AR設定、写真・動画撮影) ・マップ作成 (使い方、QRコードの設定、デザイン) ・印刷会社との交渉
3 整理・分析	2年次 3学期 3年次 1学期	・ARコンテンツ/マップのユーザーレポート作成 ・マップの活用方法についてのディスカッション ・関西学院大学は平部高島千代教授ゼミにてワークショップ実施 ・神戸新聞の取材、マップの発信
4 まとめ・表現	2年次 2学期	・関西学院高等部 オープンハイスクールにて呼びかけ ・関西学院中学生 に対して呼びかけ ・高校1年生の探究 BASIC の授業にてワークショップ実施 ・関西学院上ヶ原キャンパスにてポスター掲示、事務室にマップを設置 ・校報休載に承諾 からの取材体験についてのインタビュー 方法を学び、関西学院中学部 OBの取材体験者にインタビューを実施 ・関西学院高等部 3年生探究型授業合同成果報告会にて発表 ・文部科学省主催 2021年度 全国高校生フォーラムにて発表

登本洋子 他. (2024). 改訂版 学びの技：14歳からの探究・論文・プレゼンテーション. 玉川大学出版部.

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価

「AI活用」

探究のステップ	時期	内容
1 課題の設定	2年次 1学期 2学期 3学期	・AI活用を知る ・動画視聴、会議で導入しているAI調べ ・企業でAIを活用している方からの課題データサイエンスワークショップ ・AI活用を考える ・自分たちのAI作品を審査、発表、コメントをもらう ・実際にAIに触れる (Scratch)、画像認識AIを使った作品を考えて作成 ・AI活用を実践している企業を訪問 ・関心のある社会課題の探訪 ・仮説の設定 (仮説の検証の強化) ・各段によるフィールドスタディの実施 →仮説の検証 ・文献調査 (レファレンスリストとカードの作成) ・ポスター作成 (仮説の検証) ・AI活用、についてさらに知る ・プロンプトエンジニアリング/Diigoに固定 ・仮説の再設定 ・関心のある社会課題の探訪
2 情報の整理	3年次 1学期	・文献調査 ・対話型AIのプロンプト (ハイロッド版) / Diigo作成 ・関心のあるSDGsニュース/メディア2025に記録
3 整理・分析	2学期	・作成したAIを用いた調査、分析 ・発表、アンケート、インタビュー
4 まとめ・表現	2学期	・探究の集大成を発表する ・IBMで発表 ・関西学院SDGsニュース/メディア2025最終発表を目標

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価



探究的な授業の評価

→ 目標に準拠した評価

- ・知識技能
- ・思考力 判断力 表現力
- (・学びに向かう力 人間性)

→ ポートフォリオの活用

(以下のものを体系的に整理したもの)

生徒たちの書いたものや

口頭での表現、

実際に調査に取り組む様子、成果物 等

上位学習目標	
【知識・技能】	・社会で用いられているAI等のテクノロジーが持つ機能や役割、弊害などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・身近なプログラムを使って実際にAIを動かすことができる
【思考力・判断力・表現力】	・社会的課題について調べ、AI等のテクノロジーを活用した解決方法を提案することができる ・AIが人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することができる ・上記課題について、他者に議論を提起し説明することができる
【学びに向かう力・人間性】	・AIやAIと人間との関係性、インノベーションについてより深く知ろうとし、それを解いて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AIなどに代用されるテクノロジーとと学ぶに共通する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求しようとしている

下位学習目標	
【知識・技能】	①実際にAIを社会で活用する人を通じて、社会で用いられている実証的なAI活用に関する知識を習得することができる ②社会的課題解決のために、2年間でAIを動かした経験と、社会的課題に関わる膨大なデータを基にAIを活用した課題の解決をすることができる
【思考力・判断力・表現力】	③AIを活用した社会的課題の解決策について、論議などを進めて意見を交換して進めることができる ④AIを活用した社会的課題の解決策について、倫理的な判断を説明することができる
【学びに向かう力・人間性】	⑤AIを活用した社会的課題の解決策について意図に気づきやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えようとしている ⑥AIやAIと人間との関係性、インノベーションについて、倫理的に正しい知識を身に付けようとしている ⑦社会的課題に向き合う中で、AIなどに代用されるテクノロジーとと学ぶに共通する必要があることに気づき、自分の生き方について追求しようとしている

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価



探究的な授業の評価材料

・知識技能

→ **学びの記録**の左側(知識事実)、小テスト、文献調査、
発表の中の知識部分の観点、エッセイの知識部分

・思考力 判断力 表現力

→ **学びの記録**の右側(考察)、発表時の相互評価、エッセイの考察部分

・思考力 判断力 表現力

→ **発表** (プレゼン)

(・学びに向かう力 人間性)

→ 自主的な調べもの、夏休み中の教員とのやりとり)

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価



学びの記録

授業：2025 3年生 AI 活用 記録日：4/22 (火)
提出日：4/30 (水) ※バスケットボール部提出

3年()組()番

名前()

観点1 プロンプト作成の知識	
A	プロンプトエンジニアリング手法について、正確に整理されて記述されている
B	プロンプトエンジニアリング手法について、ある程度整理されて記述されている
C	プロンプトエンジニアリング手法について、あまり記述されていない
観点2 考察	
A	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を深く考察することができる
B	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品をある程度考察することができる
C	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を浅く考察できている

K: 知識 / 事実 = Know	W: 考察 = What I think and researched / Want to know
1. プロンプトエンジニアリングの手続き (4/22)	自分で調べた内容

1. 探究型授業のデザイン・実践・評価



成果レポート

2024 年度 2 年生 AI 活用 1 学期レポート

-4/16 (火) 学びの記録:分類したAI関連の新聞記事について

(B) 観点1:知識 観点2:AI関連記事の自分が選んだ分類項目
(B) 観点2:考察 左側の内容 × 自分が読んで知っていた/体験したことがある内容
= 今後自分はAIのどのようなことを知りたいか、
知る必要があると考えるか

-4/23 (火) 学びの記録:日談教授の講義

(B) 観点1:知識 観点2:今日の授業で日談先生から新しく知ったこと、
学んだこと
(A) 観点2:考察 Kに対して、自分が考察したこと(新事実×既知事実)
(A) 観点3:調べたこと もっと知りたいと思い調べたこと

-5/7 (火) 学びの記録:AIのほんの少しの体験

(A) 観点1:知識 観点2:今日の授業で新しく知ったこと、学んだこと
(A) 観点2:実体験 Kについて、あなたがこの1週間の生活の中で出会った/体験した(かもしれない)AI

観点1 知識	
1	「AIとは何か」について正確に整理して記述されている
2	「AIとは何か」についてある程度整理して記述されている
3	「AIとは何か」についてあまり整理して記述されていない
観点2 考察	
1	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を深く考察することができる
2	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品をある程度考察することができる
3	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を浅く考察できている
観点3 調べたこと	
1	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を深く考察することができる
2	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品をある程度考察することができる
3	調査で得た知識と既知の知識、体験の有無的なつながりに基づいて、製品を浅く考察できている

2. 学校内外連携



2022年度以降

「探究型カリキュラム委員会」

- 構成員 20名
副部長・教務副主任・事務・授業担当者 (合計17科目)
- 会議
全体打ち合わせ (月1回)
学年別打ち合わせ (月1回程度)
- カリキュラムアドバイザー
関西学院大学 高等教育推進センター 教授 時任隼平
- 内容
探究についての研修会、事務的報告・審議
「探究の集い」や学年イベントの企画
学外の研修会やコンテストの情報共有 (Slack)
- 現在の検討事項
読書科との更なる連携、学校として探究をどう推進するか
推薦条件含む成績などの教務的扱い 等 山積中

2. 学校内外連携



事務室の支え

- ・予算や謝礼などの金銭的处理
- ・HPでの活動報告のアップ
- ・「探究の集い」実施に伴う業者さんとのやりとり

チラシづくり (アプリス)
申込システム (mirai compass)
HP (学院の広報)
当日の運営 (備品購入、用務、学院etc.)
後援 (Classi、大学)
広報 (Classi、大学)

etc.



＜生徒が一社会人としての在り方を学ばせていただける機会＞

＜教員も(楽しんで苦しんで)学ぶ主体であること＞

＜生徒教員共に自分の学校内で満足しない意識＞

2021年度	
1号	鹿児島大学教育用中々大蔵小・デジナ・システム株式会社/JALスカイ大陸 研究 Basic 広島県立短大芸術科音楽コース代表者 / Panasonic / おていとおつクラブ / 神みらい言語学
2号 AI活用	With The World / 上尾進人さん / シンガポール中国大使さん / 関西学院大学理学士学部主任教授
ヒューマン系	川口真由子氏（元福岡女子大学文学部・高等学校教員）野村智恵子（九州公立大学准教授兼編集者）山内久美子（福岡国際高等学校校長）藤井千鶴（東京・専門学校・IT研修施設）野中道雄先生（千葉県を考へる方々の会）和子先生（長岡市立高等学校）伊田さん（熊本県立大学）小林聖心高等学校3年生 / 兵庫県松山市庁副市長
	フーランド・アール・パトリック・デズルビエ（Lebanon）の学生高橋 学さん
2号	FoE Japan（環境NGO）/ Hannah Lee（NZ）/ Sean White（Lebanon）/ Dee Commins（AUS）Erika Lind（AUS） グローバルスタディーズ Hannah Griffith（SWITZ）/ インドネシアの高校生 / Harch / ARTTC / soccer 徳島県内 / JEEF / 世界銀行 / CWS Japan / 日本赤十字社 / 安部昌弘先生 / 宇佐崎洋介企業顧問 / ヴァーニ・スティーブ / 日経経済新聞社 / 日本広告代理店
3号	関西大学大学院法学部山岸裕二さん / MGスポーツ株式代表取締役社長長谷川月男さん 大阪府都市政策推進員 / 特定非営利活動法人らびー青森県内 株式会社代官インフォメーション株式会社池田ゆうさく / カシオイン株式会社取締役の森田信成さん 関西学院大学理学士学部主任教授
3号	関西学院大学法学部高松政一 / 神戸商院 / 関西学院大学リハビリテーション科大堀幸平さん / 関西学院各事務室 ビジネスサテライト 京都府京都市東山区田原さん / 関西学院大学看護学部 西澤 清孝さん、野田 大志さん / 関西学院大学社会学部大阪府立科学研究所社会福祉教育 / 加賀市役所健康企画課西澤 仙雄さん等
2号	Saint Patrick School / フォリン - Queens City
グローバルスタディーズ	

＜どのようなバランスが理想なのか＞

＜そもそもbeliefは整うか＞

＜何を拠り所にすればいいのか＞

表 4-1 探究テーマ・課題の決定主体別類型

	説明	特徴
①教員決定型 地域探究	教員がテーマ・課題を決める	・教員が指導しやすい ・生徒全員同じテーマ・課題に取り組ませることもできる ・生徒の動機づけが難しい
②教員提示・生徒選択型 探究型科目	教員がいくつかの選択肢を示して、その中から生徒が選ぶ	・教員の指導のしやすさと生徒の動機づけを両方得られる
③生徒決定型 読書科	生徒が自ら探究テーマ・課題を決定する	・教員が指導しにくい ・生徒によって取り組むテーマ・課題が異なる可能性が高い ・生徒の動機づけがしやすい

佐藤浩章. (2021). 高校教員のための探究学習入門: 問いから始める7つのステップ. 学事出版. の p.30より

＜そもそもbeliefは整うか＞

教科を超えた共通理解と共通言語のすり合わせ

共通言語： ex. 「学びの記録」「考察」
「情報カード」「5つの学びの方針」

Borg, S. (2003). Teacher cognition in language teaching: A review of research on what language teachers think, know, believe, and do. *Language Teaching*, 36, 81-109.



3. 探究型授業の展開

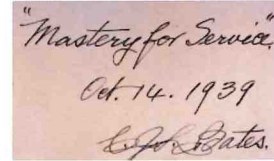
Mastery for Serviceを体現する世界市民の一員として、
国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を身につける

5つの学びの方針 Five Principles for Learning

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. 自分事として | <オーナーシップ/一人称> |
| 2. 社会/実践を通して | <PBL型/アクション> |
| 3. 知識を大事に | <自ら得る知識/高める関心> |
| 4. コミュニケーションを通して | <自分/他者とのやりとり> |
| 5. 生徒・教員が共に | <共に探究する関係性> |

3. 探究型授業の展開

3) どのような探究を学校として目指せばいいのか？
<何を拠り所にすればいいのか>



"To be a man, **a master man** and at the same time
a true servant of humanity is our ideal."

「だからこの学校で探究をするんだよ！」

(個人的に思う今後の探究のキーワード：自己調整学習)

これ余談なんですけど



入試情報総合サイト

イベント情報

資料請求

Top > 入試説明・提出書類 > 探究評価型入学試験

探究評価型入学試験

入学試験概要・要項

提出書類

関西学院大学 (2025 Sept. 26) 入試情報総合サイト 探究評価型入学試験 <https://www.kwansei.ac.jp/admissions/guideline/exploratory.html>

これ余談なんですけど

Step2

自分の探究活動が以下探究活動のタイプAのどれに該当するか確認し、該当するタイプのExcelをダウンロードする。

※探究活動タイプの選択が評価に影響することはありません。

探究活動タイプA

実験や質問紙調査等による新たなデータ収集を重視し、発見を明らかにしようとした探究活動

タイプA"実験説明書"

タイプA"記入例"

探究活動タイプB

他校との交流や協働（例えば海外の学校等）を重視した実践活動等の探究活動

タイプB"協働説明書"

タイプB"記入例"

探究活動タイプC

特定のテーマに関する学術的考察を重視した探究活動

タイプC"考察説明書"

タイプC"記入例"

これ余談なんですけど

<本学が定義する「探究活動」について>

本学が定義する「探究活動」とは、以下①～③のように問題解決的な学習が究極的に振り返られていく活動です。

- ① 世界の諸課題・実生活や実社会に目を向け、疑問や関心に基づいて自ら課題を見付ける
- ② 課題について学び、必要な情報を収集して整理・分析し、知識や技能に結び付け、他者や様々な機関等と協働しながら、課題の解決に取り組む
- ③ 分析・考察結果や活動から学んだことを振り返り、また新たな課題を見付け、その課題の解決に取り組む

例	該当しない活動	該当する探究活動
1	スポーツ・文化活動（ダンス・バレー等含む）の大会に参加して全国大会で好成績を収めた。	スポーツ・文化活動で売れた経験から、チームビルディングに興味を持った。目標の成績を残したチームと残ることができなかったチーム（計10チーム）を対象に、チーム機能に関する質問紙調査を実施した。
2	モデル・アイドル活動等で雑誌やテレビで取り上げられた経験がある。	アイドル活動を通じて取り組んだ地域活性化活動がきっかけとなり、地域活性化に興味を持った。全国の地域活性化活動について情報収集を行い、1校の事例の傾向を分析し、同型化を行った。また、海外との比較も行いその相違点・共通点を検証した。
3	修学旅行で訪問する場所について事前に調べ学習を行った。	修学旅行で訪れた地域での参りへの参加がきっかけで、地域における「参り」の機能や意義について興味をもった。その地域の参りにどのような機能や意義があるのかを社会学の理論を用いて考察した。

※本学が定義する「探究活動」は、**内容がアカデミックであり、社会的意義を含む活動です。**

出願前にご自身の活動が本学の定義する「探究活動」に該当するか再度ご確認ください。

ご清聴ありがとうございました

研究発表Ⅱ

キャリア教育と探究活動

和歌山県立桐蔭高等学校 山本 学 先生



R4年～ **桐蔭ゼミ(探究型学習)**を加える

1

キャリア教育が推進されている背景

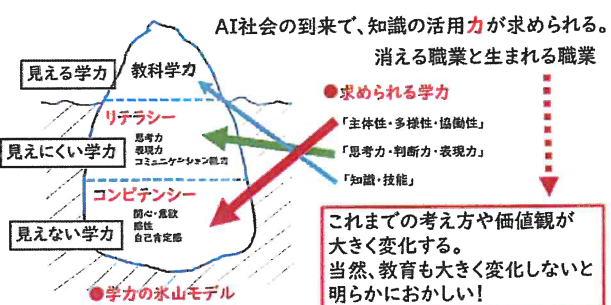
4

Tojin Kikuchi Kan 1919
新編 国文学大系 小説第1巻

新編 国文学大系 小説第1巻

新潮社

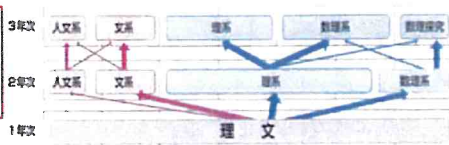
- 2



5

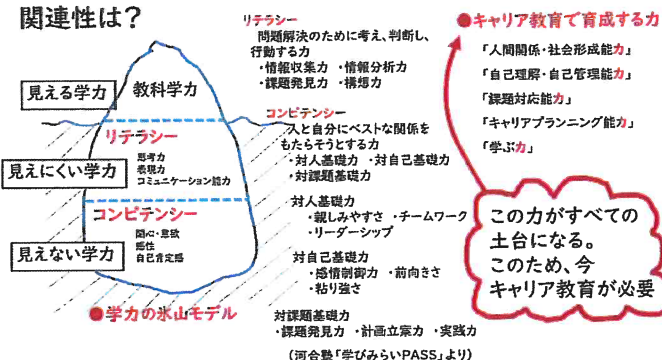
行	列	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
2	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
3	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
4	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
5	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100

志望校群による
学種集団のグループ化
東大・京大
難関大
その他の大学

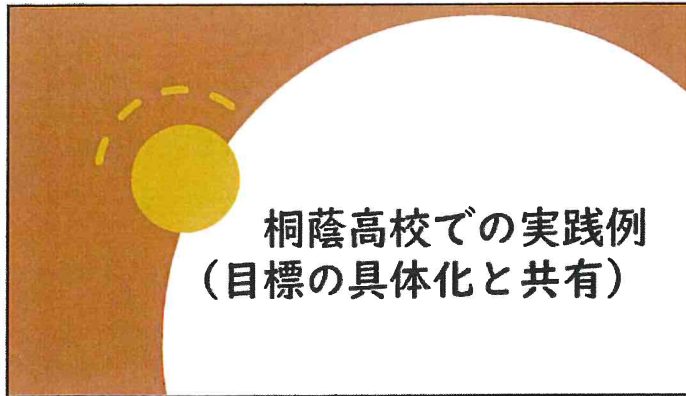


3

関連性は？



6



7

キャリアとは・・・

「・・・人が、生涯の中で様々な**役割を果たす過程**で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見だしていく**連なりや積み重ね**が、「キャリア」の意味するところである。」(抜粋)

キャリア発達とは・・・

「社会の中で**自分の役割**を果たしながら、**自分らしい生き方**を実現していく過程を「キャリア発達」という。」

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」より(平成23年1月31日))

10

H25年(2013年)～H28年 文部科学省指定事業として研究開発
研究課題 「進学を主とする普通科高校におけるキャリア教育」
研究仮説 「普通科こそキャリア教育が必要である」
仮説に対する取り組み
(ア) 学ぶ目的を省察させて、学ぶ意欲の向上につなげる
(イ) 人間関係づくりのためのコミュニケーション能力などの向上につなげる「**桐蔭キャリア教育モデル**」の構築

キーワード 「省察的な気づき」と「言語化」
両輪 「キャリア桐の葉」+「学習指導」



8

基礎的・汎用的能力

「社会とのかかわりの中で、生活し仕事をしていく上で、基礎となる**力**」
⇒キャリア教育を通して育てていくべき**力**(教育目標)

具体的には4領域に分類される

- 「人間関係・社会形成能力」
- 「自己理解・自己管理能力」
- 「課題対応能力」
- 「キャリアプランニング能力」

本校ではこれに「**学ぶ力**」を加えて、5領域で整理した。

「自ら人生を切り拓く生徒を育てます」

11

キャリア教育って何？

キャリア教育 = 職業教育 = 出口指導(進路指導)
という**意識からの脱却**

- ・「逆引き大辞典」:職業からの進学先の**検討**か？
- ・職業人(社会人)として必要なことを**教える**ことか？
- ・生徒にマッチしていそうな進路を**一緒に探す**ことか？
- ・クラブや学校行事など授業以外のことに積極的に**参加させる**ことか？
- ・・・・などなど



9

付けたい力30

5領域に対応した「**具体的な行動目標**」を30に絞り込み示した。

【作成の過程】

1. 職員会議の終わりに全職員に対して**白紙**が配られた。
2. 「**桐蔭生に対して付けたい力**」を具体的に箇条書きで自由に書いてと求められた。
3. 挙げられたものは多岐にわたったが、ある程度のグループ分けは可能だった。
4. 当時の推進担当(キャリア委員会)の先生方でグループ分けして全項目で30項目に整理した。

⇒個々の先生方でキャリア教育で「**付けるべき力とは何か**」は持っていたのだが、その**類型化と体系化**が出来ていなかっただけ。

12

「人間関係・社会形成能力」(全5項目)

- ① 自ら進んで初対面の人に挨拶をしたり、誰に対しても誠実な態度で接することができる
- ② 全体と異なる意見を持つ者の話をよく聞いた上で説得ができ、グループの一体感を作り出すことができる
- ③ 自分に関わってくれる人の意見を素直に受け止める謙虚さがある
- ④ 班別学習や学校行事、クラブ活動等で、自分が所属する集団に貢献することができる
- ⑤ 社会のルールに従って、節度ある行動をとることができる

13

「キャリアプランニング能力」(全6項目)

- ⑮ 職業や職種と必要な資格の関係について理解し、将来像と重ね合わせて考えることができる
- ⑯ 雇用・労働問題や社会保障制度を、これからの自分の生活と絡めて考えることができる
- ⑰ 社会人としての在り方を考え、自分の将来像を描くことができる
- ⑱ 自分に関わる人の成長を促そうとすることができる
- ⑲ グループ学習などで、率先してビジョンや方略を打ち出し、課題解決の方法を探ることができる
- ⑳ グループ学習などで、全体のことを考えた上で速やかな決断ができる

16

「自己理解・自己管理能力」(全5項目)

- ⑥ 自分の長所や短所を把握し、自己の能力の伸長に努めることができる
- ⑦ 失敗してもそこから学び、その原因を考え、改善策をとることができる
- ⑧ 目標達成に向けて、少数派であっても信念を持って、粘り強く取り組むことができる
- ⑨ 家庭学習の計画を立て着実に実行することができる
- ⑩ 課題の提出やその他の活動において、決められた時間を守ることができる



14

「学ぶ力」(全7項目) 「桐蔭の学び」冊子の作成、毎年入学生に配布

- ㉔ 学習することの意義や目的をしっかりと考えて取り組むことができる
- ㉕ いつも「なぜ」と追求する気持ちを持って授業や補習に臨むことができる
- ㉖ 返却されたテストをもとに自分の弱点を分析し、その克服に努めることができる
- ㉗ 安易に解答・解説に頼らず、最後まで自力で考え抜くことができる
- ㉘ 勉強中に起こるストレスやフラストレーションには上手に対処することができる
- ㉙ 分野によっては、学んだことをさらに深めて楽しむことができる
- ㉚ 偏差値だけでなく、大学調べを十分行った上で進路選択ができる

17

「課題対応能力」(全7項目)

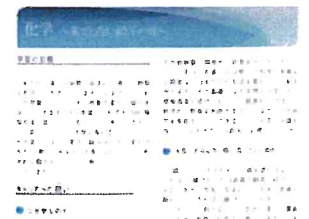
- ⑪ 課題解決の場面において、多面的なものの考え方をすることができる
- ⑫ これまでに身に付けたことを応用して、課題の解決に取り組むことができる
- ⑬ 自分の考えを無理に推し進めるのではなく、周囲をよく観察し、柔軟な対応をとることができる
- ⑭ 新聞や書籍、テレビやインターネットなどの複数のメディアから情報を収集し、比較・分析することができる
- ⑮ 研究してまとめたことを、プレゼンテーションソフトなどを用いて発表することができる
- ⑯ 課題解決の場面において、物事を論理的に考え、まとめることができる
- ⑰ 課題解決の場面において、説得力のある言葉や文章で表現することができる

15

桐蔭の学び入門

毎年、入学式の翌日に1学年全員で体育館で実施(研究以来続く行事)

「なぜ、学ぶのか」がテーマ 英数国理社芸家保体から



18

「付きたい力30」の設定により

↓
教員：キャリア教育により生徒に求めていく
目標の明確化と共有化

生徒：行動目標の明確化

研究開発の3年間は

生徒（入学時と各年度末計4回）

保護者（各年度末計3回）

教職員（各年度末計3回）を、アンケート調査実施

⇒生徒の自己評価・他者評価よりも、内容改善および周知を目的とした。



19

現在は

生徒（各年度初めと3年生終了時の計4回）

自己評価として、30項目に対して

出来ている……○3点

ときどき出来ている……△2点

出来ていない……×1点

で、点数化して自分自身のキャリア発達の「見える化」を行う

「人間関係・社会形成能力」（全5項目）… /15

「自己理解・自己管理能力」（全5項目）… /15

「課題対応能力」（全7項目）…… /21

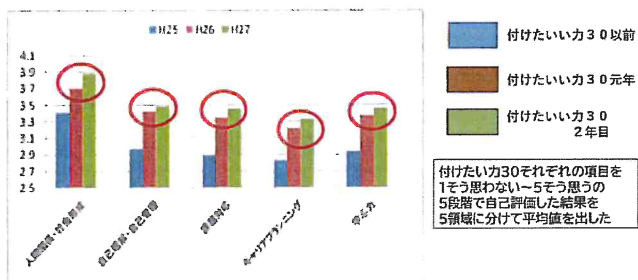
「キャリアプランニング能力」（全6項目）… /18

「学ぶ力」（全7項目）…… /21



22

生徒に対しての高3年12月アンケート結果より

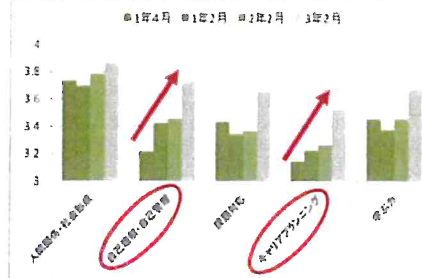


20

教材開発のベース
になる考え方

23

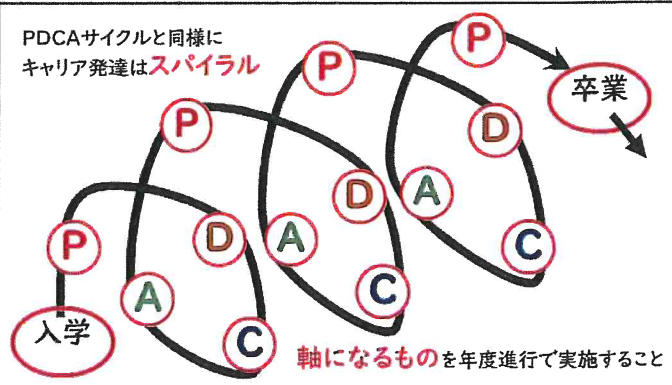
年度進行によるアンケート結果より



キャリア教育により
伸ばすことの出来る力が
明確に示された

↓
目的を明確にした
教材の開発が必須

PDCAサイクルと同様に
キャリア発達はスパイラル



24

研究開発時の教材項目		
※研究開発時の各学年での実施項目（35時間計画、高3は25時間計画）		
高1	高2	高3
・学び入門	・ビブリオバトル	・正解のない問い①
・学びインタビュー	・労働法を学ぶ	（新聞記事から）
・桐蔭リーダー塾	・ディベート	・桐蔭リーダー塾
・15年後の「私」	・桐蔭総合大学	・正解のない問い②
・30歳の「私」の履歴書		（小論文から）
・桐蔭総合大学		・正解のない問い③
		（社会課題から）
キーワード 「省察的な気づき」（自己を振り返り、気づき、一歩踏み出す） と「言語化」（考えを表現する・相手に伝える）		
同一内容のサイクルではなく、別内容でもキーワードをサイクルさせる考え方		

25



28

高1	高2	高3
・学び入門	・ビブリオバトル	・正解のない問い①
・学びインタビュー	・労働法を学ぶ	（新聞記事から）
・桐蔭リーダー塾	・ディベート	・桐蔭リーダー塾
・15年後の「私」	・桐蔭総合大学	・正解のない問い②
・30歳の「私」の履歴書		（小論文から）
・桐蔭総合大学		・正解のない問い③
		（社会課題から）
「人間関係・社会形成能力」：学びインタビュー、ビブリオバトル、桐蔭リーダー塾、ディベート、		
「自己理解・自己管理能力」：15年後の「私」、30歳の「私」の履歴書、桐蔭リーダー塾、		
「課題対応能力」：桐蔭リーダー塾、ディベート、正解のない問い、		
「キャリアプランニング能力」：15年後の「私」、30歳の「私」の履歴書、桐蔭総合大学、		
「学ぶ力」：労働法を学ぶ、ディベート、正解のない問い、桐蔭総合大学、授業		
※クラブ活動、学校行事は、全領域に関わることは言うまでも無い！		

26

研究開発後の見直し
「総合的な探究の時間」で「キャリア桐の葉」を継続実施すると決定
総合的な探究の時間（新学習指導要領より）
第1 目標
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、 自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

29

付きたい力30と実施項目との関連表による目標の明確化	人間関係・社会形成能力
1. 自己理解・自己管理能力	1. 自己理解・自己管理能力
2. 課題対応能力	2. 課題対応能力
3. キャリアプランニング能力	3. キャリアプランニング能力
4. 学ぶ力	4. 学ぶ力
5. 人間関係・社会形成能力	5. 人間関係・社会形成能力
6. 自己理解・自己管理能力	6. 自己理解・自己管理能力
7. 課題対応能力	7. 課題対応能力
8. キャリアプランニング能力	8. キャリアプランニング能力
9. 学ぶ力	9. 学ぶ力
10. 人間関係・社会形成能力	10. 人間関係・社会形成能力
11. 自己理解・自己管理能力	11. 自己理解・自己管理能力
12. 課題対応能力	12. 課題対応能力
13. キャリアプランニング能力	13. キャリアプランニング能力
14. 学ぶ力	14. 学ぶ力
15. 人間関係・社会形成能力	15. 人間関係・社会形成能力
16. 自己理解・自己管理能力	16. 自己理解・自己管理能力
17. 課題対応能力	17. 課題対応能力
18. キャリアプランニング能力	18. キャリアプランニング能力
19. 学ぶ力	19. 学ぶ力
20. 人間関係・社会形成能力	20. 人間関係・社会形成能力
21. 自己理解・自己管理能力	21. 自己理解・自己管理能力
22. 課題対応能力	22. 課題対応能力
23. キャリアプランニング能力	23. キャリアプランニング能力
24. 学ぶ力	24. 学ぶ力
25. 人間関係・社会形成能力	25. 人間関係・社会形成能力
26. 自己理解・自己管理能力	26. 自己理解・自己管理能力
27. 課題対応能力	27. 課題対応能力
28. キャリアプランニング能力	28. キャリアプランニング能力
29. 学ぶ力	29. 学ぶ力
30. 人間関係・社会形成能力	30. 人間関係・社会形成能力

27

研究開発後の見直し
「総合的な探究の時間」で「キャリア桐の葉」を継続実施すると決定
これまでの取り組みを土台に「キャリア教育」を 深化 させる
両輪の考えから「FDキャリア教育推進部」を分掌として立ち上げた。
*FD：Faculty Development の略で、 「教育内容・方法等をはじめとする研究や研修を組織的に行うこと」
授業改善、研究授業、テスト分析、FD会議として現職教育的に実施
あ. キーワード 「経験」「思考」「発信」「振り返り」を視点に教材の見直し
い. 3年間で貫く視点を「社会貢献」として各学年の目標を追加設定

30

キーワード 「経験」「思考」「発信」「振り返り」とは？

「経験」：新たな人との出会い、新しい出来事との出会い
(クラス・学年を横断したグループ設定)
新たな考え方との出会い、・・・など

「思考」：KJ法、グループ協議、合意形成、・・・など
(KJ法；個人の意見を付箋に書き、模造紙に貼り付けていき
グループ化していくことで意見集約をしながら合意形成に導く方法)

「発信」：パワーポイント、ポスターセッション、・・・など

「振り返り」：R80, R120による文章化、
ルーブリック評価(検討中)・・・など

31

高校2年生(キャリア桐の葉Ⅴ)

社会の困難や課題に立ち向かう自己を意識させる中で、情報の理解・選択・処理をし、物事の本質を理解していく姿勢を身に付けさせる。
「キャリア桐の葉Ⅳ」で培った力をもとに、自らの考えを論理的に整理し、表現する力、また他人の考えを論理的に批判できる力を育成する。

⇒ **社会における課題認識を促し、コミュニケーション能力を育成する。**

⇒ 「目標学部・大学×SDGs」(R元年度から)

34

学年目標の設定

社会状況、生徒状況などで
変化しながら

32

高校2年生(キャリア桐の葉Ⅴ)

社会の困難や課題に立ち向かう自己を意識させる中で、情報の理解・選択・処理をし、自らの考えを論理的に整理し、表現する力、他人の考えを論理的に批判できる力を育成する。また、自身の興味ある分野に関しての深掘りを継続する。」

(桐蔭ゼミの導入を受けて一部変更した)

⇒ 「社会課題+桐蔭ゼミ」(R5年度から)

35

キャリア教育での実施内容を、学年進行で「何を、どう配列」するのか？

⇒ 「**学年の目標**」を設定することから始めること。

高校1年生(キャリア桐の葉Ⅳ)

学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、将来、社会人・職業人として生活していくための基礎となる資質・能力を育成する。
文理選択を行うにあたり、今の自分の在り方とこれからどうあるべきか、何をすべきかについて、省察的な気づきを促しながら考えさせるとともに、自らの思いや考えを言語化できる力を育成する。

⇒ 「**社会貢献**」を軸に、**自分のキャリア形成を考える。**

⇒ 「**自分事×SDGs**」(R元年度から)

⇒ 「**付けたい力30+桐蔭ゼミ**」(R3年度から)

33

高校3年生(キャリア桐の葉Ⅵ)

実社会で直面するような課題にチームで立ち向かうことを通して、論理的思考力を養うとともに、異質な他者と合意形成を図りながら解決しようとする姿勢を育む。

また、「キャリア桐の葉Ⅳ」のプログラムに再度取り組むことで、自らのキャリア形成を振り返り、その成長を実感し、社会で求められる「私」の在り方を生涯にわたって考え続ける態度を育む。

⇒ **社会における課題を発見し、その解決法を科学的に思考する。**

⇒ 「**2030年の私×SDGs**」(R元年度から)

36

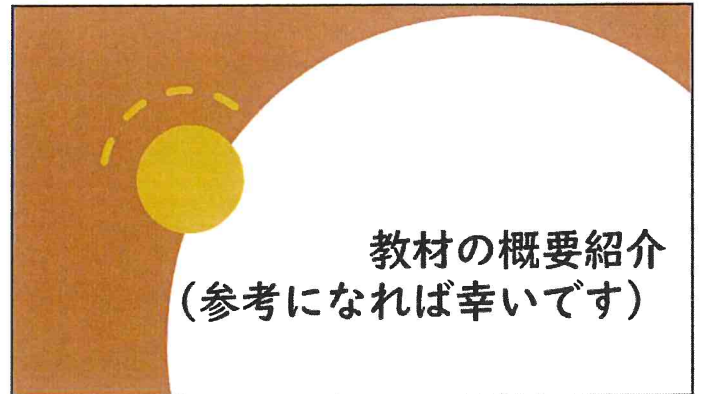
高校3年生(キャリア桐の葉Ⅵ)

「桐蔭ゼミナール」で収集した情報、得たデータを整理・分析し、各自の「問い」に対する「解」を論文としてまとめる。様々な社会課題に対する「解」を論理的思考に基づいて持ち、自分の考えを表現できる力を育成する。

(桐蔭ゼミの導入を受けて変更した)

⇒「桐蔭ゼミ(論文作成)」(R6年度から)

37



40

研究開発時の教材項目

※研究開発時の各学年での実施項目(35時間計画、高3は25時間計画)

高1	高2	高3
・学び入門 ・学びインタビュー ・桐蔭リーダー塾 ・15年後の「私」 ・30歳の「私」の履歴書 ・桐蔭総合大学	・ビブリオバトル ・労働法を学ぶ ・ディベート ・桐蔭総合大学	・正解のない問い① (新聞記事から) ・桐蔭リーダー塾 ・正解のない問い② (小論文から) ・正解のない問い③ (社会課題から)

キーワード 「省察的な気づき」(自己を振り返り、気づき、一歩踏み出す)と「言語化」(考えを表現する・相手に伝える)

同一内容のサイクルではなく、別内容でも**キーワードをサイクルさせる**考え方

38

参考例「文化祭大討論会」

☆文化祭についての計画などを立てていく流れは、キャリア教育で求められる力のすべてが入っている

☆新しい出会いを求めることから、**学年、クラスを横断したグループ**をつくり、「場」を提供することから始めて、クラスへ繋げていく

- ア. 桐蔭祭の学校のテーマの決定。
- イ. クラスのコンセプトの決定。
- ウ. クラスの出し物の決定。
- エ. 「やりたいこと(Want)」と「やらなければならないこと(Must)」の整理
- オ. 役割分担とチームリーダー決定
- カ. 文化祭当日までのタイムスケジュールの作成(全体および各役割ごと)
- キ. 個人レベルでの「やりたいこと(Want)」と「やらなければならないこと(Must)」の整理
- ク. 個人レベルでの文化祭当日までのタイムスケジュールの作成
- ケ. 途中の進行状況の確認と計画の修正
- コ. 文化祭当日の計画
- サ. 文化祭終了後の振り返り(文章として記録)



41

以下に示したのは、R2年度からの取り組み項目

高1	高2	高3
・学び入門 ・桐蔭リーダー塾 ・私の学び(学部学科研究) ・文化祭大討論会 ・私の社会貢献 ・桐蔭総合大学	・ビブリオバトル ・文化祭大討論会 ・プチ議会 (社会課題を議題に) ・桐蔭総合大学	・正解のない問い (新聞記事から) ・文化祭大討論会 ・小論文を書く (社会課題をテーマに)

以下に示したのは、R4年度からの取り組み項目

高1	高2	高3
・学び入門 ・付けたいカ30 インタビュー ・私の学び(学部学科研究) ・桐蔭ゼミナール ・桐蔭総合大学	・プチ議会 (社会課題を議題に) ・桐蔭リーダー塾 ・私の学び(学部学科研究) ・桐蔭総合大学	・桐蔭ゼミナール (発表と論文作成)

39

参考例「付けたいカ30」(高1でのスタート教材)

先生方に、付けたいカ30に関して、5つの領域に分けた付けたいカに関して、実体験を通してどのような力が必要なのかを**インタビュー**

質問を考える→アボをとる→インタビュー→終了後報告に行く

インタビュー結果を噛み砕いて、「**〇〇のために 私たちが実践すべき5つの行動**」を、班で考え、まとめていってもらいます。

模造紙を用いたKJ法で行う

結果を発表する



- △その行動を提案する理由(自分自身の今を分析して...)
- その行動を実践することで身につくこと(将来のこと...)

42

参考例 高1「自分事×SDGs」生徒用教材より

今回から全6回の「キャリア棚の葉Ⅳ」の時間を使って、社会課題と向き合っていきます。
(以下は予定) **SDGs概要を知り、自分が身近に出来る具体的な行動を考え、**

〇〇プロジェクトという形で、グループとして出来る行動を提案・実行する。

1/6時限目 「社会課題」を知り、クラスを10班に分ける。

SDGsの概要を知る。

2/6時限目 調べ学習+協議

3/6時限目 調べ学習+協議+ポスター作成準備

4/6時限目 解決策(方向性)の協議およびポスター作成1回目

5/6時限目 ポスター作成2回目および発表原稿の作成

6/6時限目 クラス内での発表と協議 (実施は全10時間)

課題

- ・取り組みの「深さ」の問題→**作業的に、こなしてしまう問題**
しかし、題材に触れて、一定の時間、そのことについて思考することは
何かにつながるだろう。
- ・担任による**温度差の問題**

43

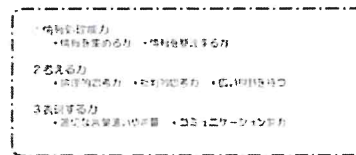
参考例 「プチ議会」(合意形成の過程を実習で学ぶ)

ディベートでは勝敗を決するため、**勝敗だけに固執していく様子が見られた。**

是非のある社会課題に対して、賛成派と反対派に分ける。**希望ではなく抽選で。**

それぞれの立場から必要な情報を収集し、理論構築をし、**プレゼン**をする。

互いのメリットとデメリットを出し合うなかで、より優れた**合意形成の修正案**を作る。



46

参考例 高2「目標学部/大学×SDGs」生徒用教材より

今回から全5回(予定)の「キャリア棚の葉Ⅴ」の時間を使って、
自分自身の「目標とする学部/大学」での学びと
その延長線上にある**社会貢献(SDGs)**に向き合っていきます。

参考例 高3「2030年の私×SDGs」(私の提言)

今、あらゆる場面でSDGsを視点にした取り組みがなされています。政府・自治体・企業はもちろん、各大学においても、積極的に活動がなされています。

そこで、今年度の「キャリア棚の葉Ⅵ」の取り組みとして、**今から10年後の社会と自分の生き方**をイメージして、「2030年の私×SDGs」(私の提言)と題したレポートを作成してもらいます。

同じ題材を用いて**グループ→個人**へと思考を移していく

44

下の、10個の社会課題から各クラスごとに4つの議題を選び行った

- ア. 有料プラスチック製袋の値段を現在の10倍にする (3円→30円、5円→50円、……消費税込)
- イ. 2035年までに日本にある原子力発電所をすべて廃止して再生可能エネルギーに移行する (再生可能エネルギー: 水力発電、風力発電、地熱発電など)
- ウ. 自転車運転者のヘルメット着用を罰則付きの義務化とする
- エ. 75才で運転免許返納を義務化する
- オ. 2035年以降の新車販売をすべて電気自動車にする
- カ. 法律の改正により選択制夫婦別姓制度を認める
- キ. 学校教育にチャットGPTを導入する
- ク. 小学校の3校に1店の割合で子ども食堂の設置を義務化する
- ケ. 2年を超えて空き家のままの場合、その固定資産税を50%増額する
- コ. 2035年から動物(犬、ネコ)の有料店頭販売を禁止する

このプチ議会における議論の過程と合意形成の結果を**リーダー塾**で発表した。

47

参考例 「卒業生に聞く」(高1高2の学部学科研究)

自分の調べ学習だけでは、得られない情報を、**卒業生から実体験として聞く機会**

- ・年齢が近く、先輩であることから自由に聞きたいことが聞ける
- ・希望を優先して、高1高2年を合わせた20~22会場で実施



- ・毎年9月第一週に実施
- ・分野ごとに、学部・学科の重なりがでないように卒業生のネットワークを中心に依頼をかける
- ・生徒は、2つの講座を聴く

45

参考例 「桐蔭リーダー塾」

和歌山県経済同友会の協力で、研究当時から
続けている内容

- ・次世代の育成という観点から、参加を希望される方は大変多い状況



津田 雅司	和歌山県経済同友会 代表理事
河合 正規	和歌山県経済同友会 代表理事
豊田 興三	和歌山県経済同友会 代表理事
田嶋 厚	和歌山県経済同友会 代表理事
大工 博史	和歌山県経済同友会 代表理事
岡田 晋紀	和歌山県経済同友会 代表理事
村尾 和義	和歌山県経済同友会 代表理事
竹島 徹	和歌山県経済同友会 代表理事
影井 恵子	和歌山県経済同友会 代表理事
山田 武志	和歌山県経済同友会 代表理事
大谷 恵一	和歌山県経済同友会 代表理事
山崎 年広	和歌山県経済同友会 代表理事
豊城 真子	和歌山県経済同友会 代表理事
本村 ゆくみ	和歌山県経済同友会 代表理事
毛利 詩子	和歌山県経済同友会 代表理事
藤岡 雅夫	和歌山県経済同友会 代表理事
野田 重樹	和歌山県経済同友会 代表理事

48

桐蔭ゼミナールの導入

目的：生徒たちに**大学での学びを体験**させること

結果ではなく、**+αの活動（1次情報の収集）**を行うことを必須とした。



49

探究型の「桐蔭ゼミナール」の年度進行計画

高校2年生 10月から年度末まで（全18h程度）

- (1) 高校1年生の時に考えた「探究テーマ」「仮説」「1次情報」の再考
- (2) および探究活動の**グループで行うか、個人で行うか**の判断
- (3) **1次情報の収集に関して考える（収集の目的）**
- (4) 11月からを目途に+αの活動を開始していく

「探究テーマ」に関して、仮説またはプランまたは改善策案の科学的根拠となる内容を中心に、1次情報を集めていきます。

この1次情報の収集が必須にしている+αの活動になります。

次の、(ア)～(オ)の項目順に具体的に考えていって下さい。

- (ア) どのような内容の1次情報を、
- (イ) どのような方法で、
- (ウ) 必要な道具は何で、
- (エ) 場所はどこで
- (オ) どれだけの時間をかけて

【生徒教材より】

52

探究型の「桐蔭ゼミナール」の導入（R4年度から年度進行で）

大学入試での「探究活動」の評価利用の高まりの中で、自身の興味関心のある事柄に関しての、探究型のキャリア教育を導入することにした。

【生徒に要求するレベル】

- (ア) 自分自身で「探究テーマ」を考えて、「仮説」を立てること
- (イ) 調べ学習で終わらせないために1次情報の収集を必須とすること（+αの活動）

(A) 「なぜ、〇〇は△△なのか？」

(あ) 仮説「〇〇は、□□なので、△△となる」

(B) 「〇〇の△△について深掘りする」または「〇〇の作品群からその△△の特徴を探る」

(い) プラン「具体的にどんなことについて調べて行くのか」

(C) 「〇〇（社会課題）を改善する1つの方法案を提案する」

(う) 方法案「〇〇の原因が△△にあるので、□□することで改善が見込まれる」

50

探究型の「桐蔭ゼミナール」の活動範囲

【+αの活動の具体例】

- 実験 □観察 □実地調査 □インタビュー
- 文献調査 などなどが、考えられます。

※ただし、アンケートによるものは不可×をお願いします！

【活動範囲および時間の制限】

- 理科教室（物理・化学・生物） □家庭科教室
- 図書館 □校庭 などなど

※理科室などの特別教室を使用したい場合は、別途、申請書を出してもらいます。

【校外での活動の制限】

- 県立図書館 □県立美術館 □和歌山城 □ブラクリ丁
- 自転車で行ける範囲の場所 などなど

※学校外に出て活動する場合は、別途、申請書を出してもらいます。その上での許諾の判断になります。

53

探究型の「桐蔭ゼミナール」の年度進行計画

キャリア桐の葉の実施時間割 毎週水曜日6限目

水曜日だけ6限で終了するため、**放課後が延長して使える**

3学期には、隔週で5-6連続2時間実施が3回（全学年）

高校1年生 10月から年度末まで（全18h程度）

自分の興味関心のある内容に関して「探究テーマ」「仮説」

「1次情報の収集目的と内容、方法」を考える

→昨年度から**和歌山大学生の学生ボランティアの協力（のべ13名）**

3学期の5-6連続時間での実施時

個人で考え出したテーマ（**ここから、定義や対象を絞り込んでいく作業をする**）

(例) なぜ、日本人は開始時間に厳しいのに終了時間にルーズなのか

(例) 世界の常識と日本の常識について深掘りする

(例) ご当地キャラ（ゆるキャラ）が地域の活性化に与える影響について深掘りする

51

探究型の「桐蔭ゼミナール」の年度進行計画

高校3年生 4月から12月最終まで

- (1) 高校2年生での+αの活動の継続
- (2) 2次情報も含めての**結果分析（結論）**
- (3) 探究結果の内容を**プレゼン**としてまとめる（**7月に発表**）
- (4) 論文を作成する
- (5) 論文集としてクラスごとに作成する（読み合わせ）



54

キャリア教育の評価

55

ポートフォリオにつながる自己評価について

生徒：それぞれの項目が終わるごとにR80やR120による文章での振り返りで自己評価

本年度から、ルーブリック評価などが取り込めないのかを研究

教員：年度末に、文章による評価

文例を示して、各生徒に当てはめていく

3 グループ学習において、率先してビジョンや方略を打ち出し、課題解決に努めた。

12 自らの将来を考える上で、情報収集や協議に意欲的に取り組み、創意工夫のある発表ができた。

など、20程度の文例をキャリア委員会で作成し提示しておく。担任は、それをベースに評価記入

56

もう少し、詳しく知りたい教材については・・・

E-mail: Yamamoto-m048@wakayama-c.ed.jp

のアドレスで、山本まで連絡ください。
具体的なものをメールで送らせていただきます。

本日は、有難うございました。
至らぬ点が多かったと思いますが、
ご容赦ください。



57

